

養成人材

社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探究力と課題解決力をもった教員を育成することを教育上の目的とする。

学位授与の方針

専門職学位課程（教職大学院）は、社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探究力と課題解決力をもった教員を育成することを教育目的とする。この教育目的を達成するために、以下の資質・能力を獲得した者に対し修了を認定し、教職修士（専門職）を授与する。

- 1 高度な知識・技能に基づいた授業実践力  
子どもたちの個性に応じた学習支援に配慮しつつ、彼らが主体的・協働的に学ぶ授業をデザインし、実践できる高度な力
- 2 子ども理解に基づく学級経営力  
子どもたちや子どもたちを取り巻く現状を多面的多角的に把握した上で、良好な人間関係を構築し、彼らの思いや願いを受けとめた適切な学級経営ができる高度な力
- 3 的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力  
学校課題を的確に把握して問題解決をはかり、学校運営の中核的スクールリーダーとなりうる高度な組織マネジメント力
- 4 深い省察に基づく実践研究力  
教職実践者として実践を深くリフレクションしながら、実践と理論を往還する高度な研究力

現職教員として入学した者には、上記1～4.に加えて以下の資質・能力の獲得を求める。

- 5 学校運営改善を推進する提案力  
最新の教育動向を踏まえ、学校現場に向けて、効果的な授業の改善策や学校運営の改善策を提案し推進していく高度な力
- 6 地域や他校との連携を円滑に進める調整力  
対話を通して、地域や他校との適切な調整を行い、連携を推進することができる高度な力

教育目標									
	1 高度な知識・技能に基づいた授業実践力の育成								
	2 子ども理解に基づく学級経営力の育成								
	3 的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力の育成								
	4 深い省察に基づく実践研究力の育成								
	5 学校運営改善を推進する提案力								
	6 地域や他校との連携を円滑に進める調整力								
年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4	教育目標 5	教育目標 6	
	1 教育課程の課題探求	教育課程の編成と実施に関する深い理論的知識を獲得するとともに、実践的力量的基礎を獲得する。	◎				○	○	
	1 教科の教育課程構成論	教科の教育課程構成に関する諸理論をおさえつつ、小中高校段階を含めて、実践的な教育課程を構成する方法等について学修する。	◎						
	1 教科指導の課題探求	学校における実践的な教科指導力の育成を目標とする。	◎						
	1 教科指導の発展・応用	指導法、教材、学習者に関する理解を深め、模擬授業や附属学校での授業観察を含め、実践的な資質・能力を高める。	◎						
	1 生徒指導・教育相談の課題探求	高度な知識・技能に基づいて子どもたちの主体的・協働的な学びを促進させることのできる力量をつけるために、本授業では、生徒指導と教育相談、これらに関わりの深い特別支援教育に関する深い理論的知識を獲得するとともに、実践的力量的基礎を獲得する。		◎					
	1 教育経営の課題探求	学校制度の意義と課題を踏まえ、授業や学校（園）教育活動の構想、構成、構築など学校教育活動に関わる運営、推進についての知識や技能を教育経営の観点から実践的な事例を通して学び、学校（園）マネジメント力の獲得を目指す。			◎				
	1 学校と教職の課題探求	子どもと教師、学校内の教師の同僚性、教師と保護者・地域といった関係の中で生ずる学校と教職をめぐる現代的諸課題に対して、多様な研究分野や実践現場で形成された理論的視点や実践的見識を理解すると共に、そこで形成された視点を具体的な状況のなかでの実践的省察や活動的探究に生かしてゆく実践的な専門的力量を形成する。	○	○	◎	○	○	○	

1	実地研究Ⅰ	①教育課程、②校(園)内体制、③指導計画の作成と学習指導、④行動特性の理解、⑤児童生徒支援の実際等について基礎的なことがらを理解する。 そのために、学校・園における様々な教育場面において、実践的・臨床的に関わる経験をふまえ、各自が研究テーマを明確にするとともに、学校組織の一員としての実践力の育成も図る。 現職については、フィールドワークにおいて、その育成を図る。					◎	○	
2	実地研究Ⅱ	①教育課程、②教科指導、③生徒指導及び教育相談、④教育経営、⑤学校教育と教員の在り方、⑥生徒指導、⑦教育相談について、実地研究Ⅰでの幅広い実践経験の中から具体的な課題を探究し報告書にまとめることができる。					◎	○	
1	課題研究Ⅰ	①教育課程、②教科指導、③生徒指導及び教育相談、④教育経営、⑤学校教育と教員の在り方、⑥生徒指導、⑦教育相談について、実地研究Ⅰでの幅広い実践経験の中から具体的な課題意識を明確化する。					◎		
2	課題研究Ⅱ	①教育課程、②教科指導、③生徒指導及び教育相談、④教育経営、⑤学校教育と教員の在り方について、自身の教職経験や大学院で学修した幅広い実践経験の中から具体的な課題意識を明確にし、その課題解決に向けた準備を行うことができる。					◎		
1	自然科学系教育の理論と実践A (算数・数学)	小学校算数、中学校・高等学校数学の授業において、授業中における学習者の活動と教師の指導を「関係的に」理解する。	◎						
1	自然科学系教育の理論と実践B (理科)	後藤：自然科学の理論をどのように授業で扱っていくのか、構成主義に基づいた探究型授業を展開できるようになる 中島：理科教員としての専門性を獲得する。具体的には、理科教育の学力と評価について、現在の理科教育における課題解決に必要な要素とその具体的な授業を考察できる。	◎					◎	○
1	自然科学系教育の授業内容探求A (算数・数学)	小学校算数、中学校・高等学校数学の授業において、授業中における学習者の活動と教師の指導を「関係的に」理解する。	◎						
1	自然科学系教育の授業内容探求B (算数・数学)	中学校・高等学校数学の授業について、それぞれの授業内容と関連する既習の事項や発展的内容を理解する。	◎						
1	自然科学系教育の授業内容探求C (理科)	物質の性質、運動とエネルギー、自然現象の規則性や法則性の内容に関して小学校から高校までの学習内容を俯瞰的に捉え、各単元で有機的なつながりを持たせつつ授業を行う能力を修得する。	◎						
1	自然科学系教育の授業内容探求D (理科)	小学校から高校まで理科第二分野(生物・地学)の学習指導において、「生命」「地球」に関して多様性と共通性、時間的・空間的視点で捉える力の育成を目的として、野外観察・実験をいかに取り入れるべきか、その観察・実験をもとにどのように児童・生徒の理科への興味関心を高めるかを探究する。	◎						
1	自然科学系教育の教材研究と実践A (算数・数学)	代数学・幾何学・解析学・確率統計学・数理科学分野に関連した内容を深く理解する。	◎						
1	自然科学系教育の教材研究と実践B (算数・数学)	代数学・幾何学・解析学・確率統計学・数理科学分野に関連した内容を深く理解する。	◎						
1	中核的理科教員(CST)養成講座	以下の5つの領域に関する知識と技能を習得する a)最先端の自然科学の状況 b)魅力的な観察実験技能 c)実践的理科指導法・マネジメント d)理科の才能育成と科学研究指導法 e)科学コミュニケーションの基礎と応用	◎						○
1	言語文化系教育の理論と実践A (国語)	言語文化系教育(国語)を総合的に俯瞰する知見を獲得し、広く国語の授業実践に生かせる主体的問題意識を涵養する。	◎						

1	言語文化系教育の理論と実践B（英語）	英語教育関連の論文を読めるようになる。 英語で調査研究を発表できるようになる。	◎						
1	言語文化系教育の授業内容探求A（国語）	言語文化系教育（国語）の授業内容について、発達及び習得に関する段階的な観点から多元的に知見を深め、関連させながら活用する力を涵養する	◎						
1	言語文化系教育の授業内容探求B（国語）	国語教育に関する総合的な実践的知見を得て、授業実践に取り組む力を身につけること。	◎						
1	言語文化系教育の授業内容探求C（英語）	英語授業を分析的に視聴する力を育成する。	◎						
1	言語文化系教育の授業内容探求D（英語）	英語授業を分析的に視聴する力を育成する。	◎						
1	言語文化系教育の教材研究と実践A（国語）	既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や効果を見極める能力、および授業実践能力の獲得を目指す。	◎						
1	言語文化系教育の教材研究と実践B（国語）	既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や効果を見極める能力、および授業実践能力の獲得を目指す。	◎						
1	言語文化系教育の教材研究と実践C（英語）	英語の文学性を踏まえた授業実践力を身につける。	◎						
1	言語文化系教育の教材研究と実践D（英語）	英文法に関して小学校から高校までの各単元で効果的な教材を探求する。既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身に付けることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性や新しい機能を見極め、実践する能力を獲得する。	◎						
1	社会科教育の理論と実践A	社会科教育の実践研究の現在の到達点について理解する。	◎						
1	社会科教育の理論と実践B	社会科教育実践の開発と有効性を検証する。	◎						
1	社会科教育の授業内容探求	社会科（地理・歴史・公民）の内容に関して小学校・中学校・高等学校の内容を俯瞰的に捉える能力、および各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察しうる能力を育成する。院生が児童生徒の理解を深められる、授業づくりの実践的指導を行う。	◎						
1	社会科教育の教材研究と実践A	社会科（そのうち地理・歴史）の内容に関して、小学校から高等学校までの各単元で効果的な教材を探求・選択する力を身につけることをめざす。すなわち、既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につけることに加え、学習する内容を正しく理解するために必要な教材の特性を見極め、発見する力、教材の背景にある学問的達成を把握する力、それらを教育実践に活かす能力を獲得することをめざす。	◎						
1	社会科教育の教材研究と実践B	本授業は、社会科教育のうち、公民的分野および高等学校公民科の教科教育を行う上で必要な基本的・専門的知識や教材研究を行う方途を身につけ、それらを授業実践でより効果的に活かす方途について考えることを目標とする。	◎						
1	芸術系教育の理論と実践A（音楽）	音楽科教育を中心とした音楽教育学の諸理論を理解する。 授業の実践場面を支える音楽の知識・技能を陶冶する。  力量のある質の高い教員となるために、教科や専門分野に関する専門的な知識・技能を身につけるための科目である（教育目標1及び2に対応）。	◎						
1	芸術系教育の理論と実践B（図工・美術）	理論と実践の密接な相関を理論的及び実践的に体得できたか。	◎						
1	芸術系教育の授業内容探求A（音楽）	領域「表現」の教育的意義を理解する。 各単元の指導方法や単元間の連関の方法について考察する。 音楽表現の知識・技能を高める。 模擬授業を通じて、指導方法を改善する。	◎						

1	芸術系教育の授業内容探求 B (音楽)	領域「鑑賞」の教育的意義を理解する。 各単元の指導方法や単元間の連関の方法について考察する。 音楽鑑賞に関する知識・技能を高める。 模擬授業を通じて、指導方法を改善する。	◎						
1	芸術系教育の授業内容探求 C (図工・美術)	各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察し、図画工作科及び美術科の「表現」の内容に関して小学校から高等学校までの内容を俯瞰的に捉える能力を習得する	◎						
1	芸術系教育の授業内容探求 D (図工・美術)	各単元でどのように関連した単元とつながりを持たせつつ授業すべきかについて考察し、図画工作科及び美術科の「鑑賞」の内容に関して小学校から高等学校までの内容を俯瞰的に捉える能力を習得する	◎						
1	芸術系教育の教材研究と実践 A (音楽)	領域「表現」の授業を構想し、今日的課題を踏まえて学習指導案を作成する。 各単元の指導方法や単元間の連関の方法について考察する。 音楽表現に関する知識・技能を高める。 模擬授業の実施と省察を通じて、指導方法を改善する。	◎						
1	芸術系教育の教材研究と実践 B (音楽)	領域「鑑賞」の授業を構想し、今日的課題を踏まえて学習指導案を作成する。 各単元の指導方法や単元間の連関の方法について考察する。 音楽鑑賞に関する知識・技能を高める。 模擬授業の実施と省察を通じて、指導方法を改善する。	◎						
1	芸術系教育の教材研究と実践 C (図工・美術)	理論と実践の密接な相関を理論的及び実践的に体得する。	◎						
1	芸術系教育の教材研究と実践 D (図工・美術)	理論と実践の密接な相関を理論的及び実践的に体得できたか。	◎						
1	体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求	①我が国と諸外国の教科内容について検討し、情報化社会に対応した指導の在り方について考察することができる。 ②既存の教材や指導法の問題点を指摘し改善案を提案することができる。	◎						
1	体育・保健体育科教育の理論と実践 A	体育学的な視点から、実践的な指導力に哲学的な根拠を持つようにする。	◎						
1	体育・保健体育科教育の理論と実践 B	運動学的視点から体育・保健体育の指導へ応用できるようにする。	◎						
1	体育・保健体育科教育の教材研究と実践 A	特に、教材づくり、指導法、評価法について、器械運動系、陸上運動系及び表現運動・ダンス系の領域に応用できるようにする。	◎						
1	体育・保健体育科教育の教材研究と実践 B	ゴール型(バスケットボール)及びネット型のスポーツの指導において、的確に指導できるだけの知識と技能を身につける。	◎						
1	技術科教育の理論と実践	到達目標は、適切な授業設計と実践力の育成を目指す。課題により講義で扱った理論と実践に関する理解の程度を、演習におけるプレゼンテーションや議論の内容、レポート課題により評価する。	◎						
1	技術科教育の授業内容探求 A	生物育成における学習内容および教材の構成を整理できる。 技術科教育の授業設計力、教材構成力が向上する。	◎						
1	技術科教育の授業内容探求 B	到達目標は、適切な授業設計と実践力の育成を目指す。課題により講義で扱った理論と実践に関する理解の程度を、演習におけるプレゼンテーションや議論の内容、レポート課題により評価する。	◎						
1	家庭科教育の理論と実践	多様な事例の分析や授業分析を試みながら家庭科教育の専門的な力量や教師としての力量を高める。	◎						
1	家庭科教育の授業内容探求 A	小・中・高等学校家庭科における家庭経営領域、保育領域、住生活領域の各領域について、自分自身の学習指導(授業参観含む)経験上抱いた課題を明確にし、改善した学習指導案を立案できる。	◎						

1	家庭科教育の授業内容探求 B	小・中・高等学校家庭科における衣生活領域・食生活領域の学習指導要領の内容を理解し、課題を抽出し、その課題を解決する授業を立案できる。	◎						
1	技術科教育の教材研究と実践 A	既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につける。 教材の特性や新しい機能を見極められる。	◎						
1	技術科教育の教材研究と実践 B	既存の教材の問題点や改善点を的確に把握する能力を身につける。 教材の特性や新しい機能を見極められる。	◎						
1	家庭科教育の教材研究と実践 A	小・中・高等学校家庭科における家庭経営、保育、住生活の各領域において適切な教材を作成し、その他の領域とも相互に関連付けながら効果的な授業計画を構想できる。	◎						
1	家庭科教育の教材研究と実践 B	衣生活と食生活の領域を中心に家庭科の他領域との連携も視野に入れながら教材を作成し、効果的な授業を構想することができる。	◎						
1	現代的・地域的教育課題の共同探求	現代的教育課題、地域の教育課題に丹念に向き合い、多様な領域や機関の他職種専門職と協働して課題を解決するために必要なことについて理解を深め、実践現場に還元していくことができるようにする。			◎	○	◎	◎	
1	探求活動演習Ⅰ	院生が強い興味関心を持つ特定の分野について、それを専門とする教員の指導を直接受けながら個人での探求活動を行うことができる。					◎		
2	探求活動演習Ⅱ	探求活動演習Ⅰに引き続き、自らが設定した探求テーマに関して教員から指導を受けながら探求活動を進めることができる。					◎		